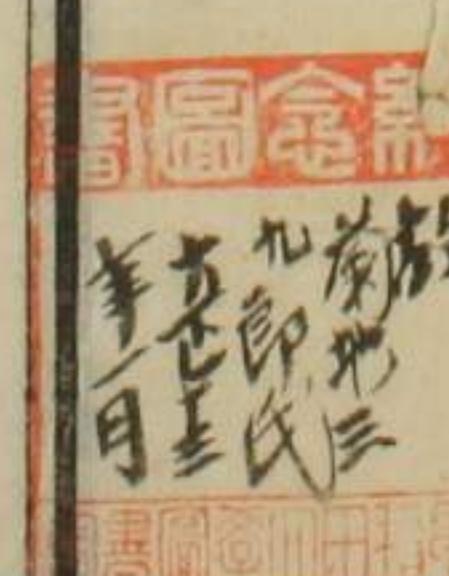


本 4
1864
1-2
2727
1



譯文要訣

凡譯文ヲ作ルニハ、先ツ倭文ト漢文トノ差別ヲ分
チ知ルベキナリ、近古ヨリ倭文ノ體一向ニ離合開
闔ノ法モナク唯書キ下シスルヲニナリタリ、平家物
語、源平盛衰記、太平記ナド、云モノハトサラ漢
土ノ小説傳奇ノ俗語ノ類ナルモノナリ、漢文ノ雅
文ト云モノハ、專ラ離合開闔ヲ用ヒテ、コレ等ノ文體
トハ格別ナルモノナリ、サレバ右ノ數書ノ中ナル事ヲ譯
文ニセンズルニハ、先此差別ヲハトクト辨ヘテ、其時宜ニ
ヨリテ、補ヒモレ、又ハ刪リテカ、又モアルヘシ、然ラサ



六、文字ハ雅ナル様ナレバ、全体ノ文勢俗文ニナルモノ
ナリ、サレハ專ラ譯文ヲスルニハ剪裁補脩ノ手段イル
フナリ

後世ノ文論ニ、動モスレバ、文ノ繁簡ヲバ云フナリ、然レ
ビ古文ニ此二体アルハ、並ニ各々其子細アルニテ、後
世ノ學者ノ唯一トヲリニ物好ニヨリテ、其差別アルト
ニ心得タルハ、以テノ外ノ僻事ナリ、古人ノ文ハ、全体、簡
ナルヲ以テ本トス、其繁ナルハ已ムトヲ得ズレテ、繁ニ
書タル物ニテ、物好ニヨリタルヲニ非ズ、サレバ古人ノ文
ハ、繁ナルトテモ無用ナル贅句ハ決シテナシ、必ス其一

句ニ前後ノ響合アルヲ、何レノ文ニテモ皆同じトナ
リ、古文ヲ讀ムモノ、是心ヲ付ケテ見ルベキトナリ
記事ノ文ニ、記事ノ文ノ辨アリ、尺牘ノ文ニ、尺牘ノ
文ノ辨アリ、混用スベカラズ

記事ノ文ハ、專ラ其記スル事ノ時ノ緩急ヲハドクト
見ハカラフベシ、事ノ急ナルヲ記スルニハ、文勢ヲ急ニ
カクベシ、事ノ緩ナルヲ記スルニハ、文勢ヲ緩ニカクヘ
レコレヲ知ラザル文ヲバ、格ニハラズ、調ヲレラヌ文ト云
フナリ

近時我邦ノ人文隆盛ナレバ、詩賦文章ノエ、未タ

其高絶ヲ極メズ、物茂卿が文ナドハ人口ニ膾炙スレヒ
知ルモノヨリコレヲ見レバ、一向ニ格モ調モ法モナキ倭文
ノ真字書ノ様ナルモノナリ、後進ノ書生ナドコレ等ノ
文ヲ學ビバ、必ズ北轍ノ患ニカヽルベシト思フ、故ニ今其一
篇ヲ彈改シテ後人ノ龟鑒ニ備フコレハ好シテ前脩
ヲ議スルニ非ズ、文章ノ如此ニ止マレルハ、外國ノ人ニモ
愧レキノナル故ニ、其一益ニモナレカレント思フバカリニカ
クハスルヲニ侍リ

其齋主人識



經堀川之

第^ヲ之ノ字ヲ用ヒザハ堀川地名ト

盜者

惡僧昌

俊也

惡僧ト云ヒイカヽアルヘキ唐ノ比少林寺ノ僧ハ太宗ノ命ニヨリテ戰

ヒラ助ケタルヲアレニコレヲ書シテ惡僧トハイハズ奈良ノ衆徒モ僧ナ

リ武ヲコト、スルモコレモ少林寺ノ僧ノ

ルイナリヤハリ但僧ト云ベキノナリ

兄

賴朝使焉

使焉ト書ク

ハ加様ノ所トハ場處チガフナリ壁言ハ上ニ盜其也其第防守嚴而某使焉ナト

ト云處ニカギリテ用フベキノナリ此處ハ公羊穀梁ナトノ書法ニナラヒテ其

本由ヲ明ス語意ナ六トカク使之也ト書クベキノ

ナリ叙事ニ似タル書カタニシタルハ誤リナリ

御賴朝執^ル盜

此「段トクト差略アルヘキトコロナリ弟ナリモ大將トナ

ナトニ秦ノ女ノ晋ノ公子ノ为ニ鹽ヲ執ルヲハ昏礼ノ作法ヨリテ左様ニハシタル

トナリ彼ニアル字面ナリトテモコノ處ヘ其体ニ突出シテ書キタルヲハ意味

不都合ノフナリ其上但カクノ如クハカリ書トキハ賴朝其弟ノ心ヲハコ^ル執鹽

ノ時ニヨリテ始メテ知リタリト云フニナリテ何トヤラン兄弟不相應ナル

ト一聞ユトカク奥州ヨリ来リテ黄瀬川ニテ兄弟始メ
テ出會アリタルヨリ書出サ子ハ叶ハヌトコロナリ

初 賴朝之

舉兵西也 義經時在與藤原秀衡之所聞之急
馳追之至黃瀬川而及之乃謁賴朝以其幼而
離散未知其爲人也欲試之設盥實熱湯使義
經執之熱烙手而弗釋神色自若於是乎

於是乎ト乎ノ

字ヲ添ヘ文意差重クナリテ語勢
是ニ於テコソナト云氣味ナリ故可改賴朝已心憚焉心已憚

之加様ノ處ニ已ノ字ヲ必ス心已ト書クシ已心トカケハ顛倒ナリ漢ニノ文ニハ一向ナキトナリサテ憚焉ト書ケハ熱盥ヲ執ラセタルトニ

憚カルト云トニ文意廻ル故ニ一向ニ不通ノ事ニナルナリヤハリ之ノ字ヲ用フベキトナリ

及其奉詔西征

其奉詔トハ賴朝カ義經カ此等ハ又事理ヲ害スル書方ナリ且播南海ヨリ已下ノ二十

也播南海之役率皆以寡克衆冒險踏危出其敵不意集如風雨

害スル書方ナリ且播南海ヨリ已下ノ二十

也播南海之役率皆以寡克衆冒險踏危出其敵不意集如風雨

四字ノ文勢傳後ノ賛辭ナドノ書カタナリ記事ノ文ニ不都合ナリ改ム
ヘレ前ニ平氏ノトヲ云ハサハ其不意ト云其ノ字ハ何ヲ日當ニシテ書
不審

然當是之時賴朝始舉兵尚有東顧之憂
乃令義經代己將其兵而西義經膽略絕人用
兵如神又善撫衆大得士驩心麾下又多敢死
士是以其破義仲殲平氏未及期年而大功旋
成敵人謂我自天降也而我三軍亦鮮能知之
矣

此等ノ處モ全体ニ不都合ナル事ニ聞ユ其大將ノ之ク所ヲ三軍ニ知
ラヌト云トハトクト其縁由ヲ書キホトカサハ通シ難キトナリ然
レ凡は等ノ文勢モ記事ニ不都合ナリ兵書ノ武備志ナド云様ナシ書
中ニ其謀畧軍機ヲハ後人ノ手本ニモセヨカシト思ヒテ書ク時ニ加様
ノ委細ナル軍卒ノ心持ナドマテヘモ書キテ
行クベシ記事ノ文ニ不相應ナリ

又能推赤心人腹

コレハ後漢書ニ光武ノ事ヲ書タルヨリ出ツ然レ
正亦コレモ其傳中ナラバ苦シカラズ此ハ詳過タリ

大得士驩心麾

文五二四

下又多敢死士是以大功遄成

上ノ二句ハ上へ取りハメテ書改タル故ニ刪ル大功遄

成ノ遄ノ字字書六往來數也又ハ疾也速也ト注レタレモ易ノ損卦已事遄往詩衛風遄臻于衛ナドノ作例ヲ見ル時ハ少ニテモハヤクキリトナト、云意ニアタル字矣ナレハ此處云穩妥ナラズ

而自賴朝所遣使監其軍諸將

帥頗有樂從焉者亦多樂從之者

頗ノ字ハ總ノ事ノ体スツハリトキチヨウ

ハ不當ナリ焉ノ字例ノ誤ナリ之ニアラタムベレ足ナリ刪

事平後還東亦皆噴噴稱其材武能

弗ルヘン

己材武ト云ハ其人ノ駆使ニ堪タルヲ云フ意ニカケテ云ハ可ナリ是处ハ唯其人ノ器量ヲ譽ル處ナリ能ノ字ニ如カス

於是乎可刪

賴朝始心遂惡焉

始ノ字前ノ已心憚焉ニハリ能ノ字ニ如カス

書キ合スハ已前ハタ、憚カリタルテナリシカ是ニテ始メテ惡ミ出シタリト云丁ニナリテ意思コミ入スキテ却テ手重シ憚ハ惡ノ基ナレバ始ヲ去テ遂ヲ用ユ

蓋蓋ハ何ニモセヨト云字ナリサレハ蓋ノ字ヲ用フル句ハ何

ノ文ニテモ一本立ナル句ナルヘレ引合セタル句ニハ主客ヲルニ如カス

不者

二字亦委細スキテ蛇

分ツフヲ專トスレバ蓋ノ字ヲバ用ヒシキフナリ此处ノ如キハ賴朝霸心ハ客ナリ義經ノソレニカヘレザルハ主ナリ然ルニ其客意ノトコロニ蓋ノ字ヲ用ユレバ主ノ句ノ力客ノ句ニ負ケテ其文氣ノ累ニナル丁ナリ故ニ此处ハ蓋ノ字ナキニシカザルナリ賴朝夙有霸心

夙ノ字ハ多ク早年ヨリト云丁ニ用ユル字ナリ

賴朝夙白舉

義經則爲弗知也如不知者

義經ヲ主トシテ引分チテ云フトキ必ズ義經則トセテハ叶ハ

ヌアナリサテ爲弗知也ト云フハ一時ノ所为ニカヘリテ云フ丁ニ可ナリ全體ノ心術ニカヘリ处置ニカケテ形容スルニ當ラヌ語意ナリ其体タラクカ氣ノ付カヌ様子ニ見ユルト云テ仕舞カ夕却テ其心術ヲ逼り出サルベキナリ乃

此乃ノ字ハ多クハ引取りセヌテ云フニ用ユ無キニシカズ

獨傾意結乎於朝廷

乎ハ上下共ニ定マリタルニ用ユベ

其在

西海報捷徙寶器諸所奏請事宜莫不稱

上

皇之旨

賴朝ノ方ラ心ニ持チテ上皇ヲ言フニハ必ズ之ノ字アルベキフナリ

叙爵昇殿寵端

見焉要越示意之後尚且恬不之省

此二十字ハ記事文ニハ不都

言文二事
合ナリ 議論文ニアルベキ語勢ナリ
且ニ段ノ語意散漫不合改ムベシ

及凱還、因賜叙爵許

昇殿、又命留鎮京師。賴朝聞心益惡之。其來致
俘功也。拒之令勿入。鎌倉而留於腰越。義經因
獻書自訴不聽。遂復西歸京。居堀川之第。然義
經之意尚無所疑。性又好聲色者。燕游多所漁。
内内所俘平氏女而還其所。并獲篋。并ノ字ヲ用ヒテ
聞ヘガタレ篋中書則蓋多諸公卿鉅室所與平氏
關通者書云篋中トイハ書バカリニハ限ルベカラズ
云焉ノ字刪去スベシ。其故ハ下文ニ尚謗言殘リタル故ニ。脉絡イマダ断サル
トコロトス脉ノ尚ツバキタルトコロニ助字次シテ用ユベカラズサレバ大

絲是寢帖席而謗從反興焉大名之下不無紛
都下人

名之下人八字も畢竟アリテモナクテモノ論ニ
テアレバ却テ此文理ノ脉ヲ妨ル故無ニレカズ
ノ句ニ應ズ六爻乃ノ字ア
ルベシ乃アレ六人ハ刪ルベシ
ナル倭語ナリ全卦蒙
童モ云フニ及バヌトナリ

其私前平大后蒙童中也

此十向

人或傳乃言

上ノ
謗矣

チクリナリチクリく思ムト云ハ語ヲ成サヌトナリ稍稍ノ字ハ譬ヘ
バ夜バナシナドノ客ノ一人ヘリニ人ヘリシテ行ク様ナル形容ヲスル時ニ
用ニシ知ラズシテムサト用ヒタル
ハ拂腹スベキト多シ慎ムベシ

滋甚、然而念諸將莫可
使也

此則ノ字モナ
賴朝稍稍惡之於諸將前而

稍稍ハ
チクリ

諸將弗響應

弗響應ト云フハ沙汰カギリニ
不成語ナリ、古文ナドニ諸將響

應ズルト書タルハ其應ズルカアイガ自然ニ感通シテ起ル意味合故ニ声
ニ響ノ應ズル様ナリト云フナリサハ響應ノ文字ハ其ヘリ久ニ
ラザハ使ヒガタキ文字ナリハマル处トハ譬ヘ因衆心之所激而争く義
隨衆心之所奮而發兵是以孤軍一呼万城響應ナド、云様ナル處ナリ
賴朝ノ諸將ヲ使令ズルハ其独斷ノ謀慮ニヨリテ諸將ヲ發收スルフナレ
バ響應不響應ノセニギハ最初ヨリアルジキフナリコレラノ處ハ文

章バカリノ論

ハ非ズ君子ハ一言ヲ以テ智トレ一言ヲ以テ不知トス云

乃私陰使昌俊私ハ公ノ反ナリ陰ハ陽ノ反ナリ私ハ一人ノ私ト云カ、リ陰ハ表向カラハユカズニト云氣味也

昌俊

者諾樂，惡僧也。它

諾樂僧有閱其隣者

樂僧トハ手ヅ、ナル丁ナ
ノ文ニハ決ニテナキ語

嘗有人與其隣曾爭

卷之三

昌俊

此二字ヲバ補ハザ
六文理属シ難シ

出死力助殺之其人

人為開

ニ死ガヲ出スト云フハ義ア
往救フニテ己ニ義ハ見ヘタ
ルベシ故助教其人ニ改ム即
下文ノ幽囚ト應ズルフヲ得

アルヲ専トシテ云辯ナリ隣僧ノ鬪ヲ
ハ先ヅ其罪状ニカヽリタルヲニテ辯ヲ作
事上_ス被捕
必ズ此ニ
字アルベシ
幽_ス諸_ヲ土肥實

平之所久而見之

得釋 外而口書此事場外乎かヒナ
假リニ名目ヲ立て言フニ先

二
記

スルガ客記ナリ外ニアツタノナレ凡今様子アリテ引持テ居テ記
スルガ主記ナリ久而ハ主記ニ用ユベレ壁、ハ某浪遊東西終不得志々
而飯ナド、云处ニ用ユベレ久之客記ニ用ユベレ此寺ノ处即チ是ナリ

A vertical strip of aged, yellowish-brown paper, likely a book cover or endpaper, showing significant wear and discoloration. The strip is oriented vertically along the left edge of the page.

100

見釋得釋ノ差別ハ得釈トスレバ文勢仍客ニナリテ下ノ客于東ニシテ住ス語勢恢順ナリ見釈トスレバ文勢一頓スル故ニ客于東ノ字ト叫

別意味ヲ持タル様ニ聞ヘテ惡心レ給別辭ハ無用ノ処ニ意味ヲ不
吟味ニモタセバ文勢穢ナラズレテ意モ因テ不明ニナルモノナリ

不_レ敢_ル自_ノ取_リ字_ハ通_ニ全_レ
敢歸遂客于東休遂字ニ易ルニレカズ
實平業已以甘

方奉賴草水メガタキ意モチニ舍ニテ使フノナリ明人以來此
ニ業已二字ヲ用ヒテ皆其義ヲ失ヘリ

所傳亦明人ニ傳ヒテ安用レタルモノナリ
賴朝亦喜^テ其桀驁^ヲ而常昵^ス之^ア
雅奇昌俊ノ一句ナケバ實平ガ薦メタルヲ、ラツクテ

リ 磐ハ人ヲ畫テ眼睛ヲ點セザルカ如レ喜而トスレバニ段ノ文意ニナ
ル此處ハニ段ニスルニ及バヌコナリ此而ノ字ヲ省キタルヲバ兩股ノ法ト云

至是遂使之云昌俊從者九十七騎兒王當

ノ書タルアトニ用ユヘシ小
人義經之人至江

ノ西スト云ヨリ書キ行カサレハ文理不順ナリ

本諾樂僧也。有故去而今事大將軍乃公之兄也。有故去ノ三字全体ニカナハス若レ義經ノ問ニ汝ハ奈良ノ僧ナルニ何故ニカ大將軍ニ事フト云フ辭アラバ有故去ノ三字アルベシ此處六賛辭ナリ除ケヘシ乃公之兄也ト云モレタルヲナリコレタ刪リ去ベレ

則乃君公之臣也。則ハ重シカ

豈有他心哉。臣今以有事於七大寺以來也。以ノ字上ニアレバ有事於七大寺虛称トナル以ノ字下ニアレバ有事於七大寺故ニ其處ニ往クト云フニナリテ實トナルナリ

未可以解焉。與他事接也。云フ本雅ナラス字ナリ

故不異以未敢請。妄意ト云字一向ニ當ラスナリ且古文ニ無キ字ナリ

圖以值公君之怒敬謝臯。詎ハ遽ト同卒遽ノ意ヲ帶タルハ心ニ持ツコロヲ用ユ此意ニテハ語勢ヌルシ

義經曰。何從者之衆從者之用。字ナリ此處ニ不相應ナリ意此意ニテハ語勢ヌルシ

衆者何。何従者之衆ト云ハ

有它心哉。嘆美ノ辞ニ用ユベレ此无キカモサク

將軍擬我者。チ必ト期後ハ辭ニ用ユ又決辭ニモ用ユサレ凡此様ナルラズレテヨレ

必用ルニ及ハヌナリ。昌俊又叩首而。是ハ決辭ナレ毛用ユカラス當面ニテ言フニ決辭ノ必用ルニ及ハヌナリ

是昌俊既去。是ハ決辭ナレ毛用ユカラス當面ニテ言フニ決辭ノ必用ルニ及ハヌナリ

酒。昌俊又叩首而。是ハ二字ハ加様ノ所ニ用ユカラス實接ヲ用ユベレ古文ノ例皆如此

可虞。此處ハ惡僧カヨレ

蓋不能釋然乎昌俊也。意獨不安昌俊也。云テハ一向ニ聞ヘヌフニナルナリ

私使二堅往覘。云テハ一向ニ聞ヘヌフニナルナリ

字前

言ナシト言

意ハ下ノ臣之罪也ト云内ニコモル丁ナレバクドくレ、ナキニシカズ
左傳ノ辞命ナドニクドくレキ様ナル處テ、見エタレニ彼ニハ皆
其當リくニヨリテワサトクドくレキ丁ナレ正書カデ叶ハヌ丁ナレ
バ書タルモノナリ後ヘムサト理モナク做フノ無念ノ丁ナリ

矢石相加于輦轂下

有驚

天聽

加様ノ丁ハワサ

臣

之罪也雖

重シナ

然賊既

今已

奔矣

敢白

視其狀

既ハ重レ視其

状ハナキカヨレ

箭之集于胄者如林而植于菔者僅

三矣辭色提提

十キガ

觀者莫不嗟嘆鞍馬山者

義經幼時故嘗所讀書處其僧多厚善

義經者

僧ヲ主トレテ書ケハ義經ノ二字アルベレ

於是皆爭爲

此亦僧ヲ主トレタ

ル處ナル故ナリ

索山

中獲諸僧正谷面縛以獻焉義經

扶其面

罵曰壯士何盟之爲

此語ヲカレキ語ナリ

盟之爲ト

後ノ为

此句

アル罵曰壯士何盟之爲

此語トキハ虚ニナルナリ

莊子逍遙

扶吾面者猶扶其兄大將軍之面

且

有ノ字モナキ

ガヨレ之ノ字

後ノ为

此句

扶吾面者猶扶其兄大將軍之面

且

有ノ字モナキ

ガヨレ之ノ字

後ノ为

此句

游ニ何南之為トアルハ上ノ云

タフガ虚ナレバ

ナリコハ

也

此句

也如此ニイハキ

コヘヨカラニカ

昌俊曰盟者私襲者公我無私憾

此句

故盟我ノ字ハナクテ

モキコエシカ

有大將軍之命故襲

此句

有ノ字モナキ

ガヨレ之ノ字

後ノ为

アリテハツリ合ヨカラヌナリ前ニモ云上

ヲリセハシキ處ナルユヘハブキテヨレ

此處ニアリテハ文勢ガヨ

ハキ故前ニ出スニシカズ

昌俊曰我者大將軍之使也

此句

此句モイラ

日扶吾面者猶扶其兄大將軍之面

且

有ノ字モナキ

ガヨレ之ノ字

後ノ为

此句

字ヲイレテ見ルベレ者ノ字モハキタルガヨレ其兄ト

イヘバ其前ニ弟ト云フ云子ハナラズ書ナラスベレ

ノ語勢ニシ

マリナシ

意氣忼慨義經壯之

此句

日欲生之

ト云語和習ニテキコエヌ

コトバナリ改ムベレ

此句

許死於大將軍矣初我誓大將軍曰不成則死

此句

此句

此句

此句

此句

於命

我已許死於大將軍矣ト云「キコエガタキナリ左傳ナドノ文章ノヤウナレ凡和人ノ俗習ノヤウニ見ユルナリ改ムベレ

願速殺我則公之惠是己

二字刪り去ベレ又按ズルニ昌俊曰以下刪り去テ我復無

面見大將軍不如死也ト改テモ死ヲ許シタル丁語外ニアレバ斯モ改ムベレ鬼角俗習ヲ去ル丁ガ専一ナリ

ベレ始カ落ツカスナリ遂斬之使中務丞友國禮也

厥明

賴朝

嘗所遣紀綱之僕安達經清者

厥明ト云「ハニ云ハストモヨキ」ナリ紀綱之

僕ト云「ハ左傳僖公二十四年ニ實紀綱之僕也ト云ニ本ツケリ然レモ全体ハ晋ノ文公ヲ秦ノ穆公が國へ送リカヘストキ守リヲヅケテヤラレタルガ实ハ其トリシマリヲサセルタメノ僕ジヤト云心ニテ此ハ晋ノ呂岱が属ヲ殺シテソノカハリヲサセルタメナリ此處ハソノ様ナルタメニ遣シタル」ナラ子バアタラヌ字ナリ加様ナ間遠タル丁ハ多キ丁ナガラ記事デモカクモノハ能く吟味シテ書タキ丁ナリ

初昌俊

之入京賴朝使安達經清從及兵敗

カクノ加クニ改ムベキ也

獨亡而東

独ノ字ヲ加ヘ

告以昌俊兵敗見殺者

之

乃ノ字怒ニ改ムベレ

於是乎

レ不當

賴朝

乃大喜怒曰

狀ノ字ハイリホガ也

於是乎

レ不當

賴朝

乃大喜怒曰

殺吾使是反也

乃ノ字怒ニ改ムベレ喜ト云字ヲ書ントナレバ初

ノ昌俊ヲ命ズル云カタモ亦其具合アルベレ

此處ニテ賴朝実ニヨロコビタラバ初ノ処ノ書カタガ足ラヌナリ最初ノトヲリナラバヨロコブ

ハツデナシ喜ノ字ヲ書テ文ヲ奇ニセント欲レテカヘツテイカリ

ホガニナレリ怒ニ作ルニハレカズ是反ノ二字ヲ加ヘテイカリ体ヲ見セタルガヨレ而今而後兵有名矣

此語モ前ノ喜ノ字ニ對シテ昌俊ナレ喜ノ字ヲ書子バ刪リテ

三ルベシカヘスノモ此語ナドガシカトアラ乃命三河守範賴

バ前方ノ書法アランカ残念くく

ノ

載書

百

テ死ヌルホドノコナレバ懼ノ字ニ改ムベシ恐デハ勢ナシ

載書

百

率六萬騎往訃辭之日謂之曰汝亦爲九郎之

所爲者邪

邪ノ字ヲイレ子

範賴

恐懼

不敢行

恐ノ字

ハ語意タラズ

範賴

恐懼

不

行

恐ノ字

ハ語意タラズ

範賴

恐懼

經聞東兵將來討己、因詣上皇御所泣訴其冤、且曰臣待於京、恐驚輦轂之下、願赴海西以待

之、如此ノフヲ書子バ義經寺ニ海西九州之兵ヲツカサドラレムル主意ガシカトワカレヌナリ源平盛衰記ヲミレバ義經ノ怨言ガ餘程見ユレバ、タ書カタモアランナレドモ先ニ此ニテ後ノツリ合ヲ付ベレ

上皇恐其作フシ因勅

伊豫守義經備前守行家以海西九州之兵討

賴朝如此ニ書テハ前ニ言トヨリ院宣ヲ下サレニ主意ガ知レヌナリ惣体ノ文章ニ似合ス兼末ナ事ナリ祖徳モ未ニハ退屈

ヲレタトミヘタリ越三日、義經與行家出洛赴海西騎士

僅三百、僅ト云字ニテ文勢ヲ付ベレ而其臣義盛奔于伊勢殺守

吏首藤以死義盛ガ事ヲカ、子バ而ノ字ハイラヌヲナリ惣体此十六字がイラヌヲナリ源平盛衰記六義經

イ、ダ幼少ノトキ鞍馬寺ニアリテ僧ト成トヲ忌嫌テ父義朝ノ敵ヲ報セシコラ思ヒ東国ニ出奔シヌ其比伊勢ノ國ノ住人江ノ三郎

義盛ト云人伯父ヲ殺セレ咎ニテ囚レトナリ免メノチ上野ノ国ニ住ケレガ義經ニメグリ逢相友トニテ善ケレ凡互ニ名ヲレラ、テアリ、賴朝兵ヲ伊豆ニ至リ、藤九ト云僕ヲカリノテ伊豆ニ至リ、賴朝ノ陣處ニイタリ書ヲ通スルトキ始メテ九郎義經ナルヲレリ主從ノ契約シテ伊勢ノ三郎ト改メ屋嶋、檀浦ノ戦ニ三十先鋒タリレ都ヲ落ルトキ義經ノ落着ヲキカバ馳行ント約シテ故郷ナレバ伊勢ニカヘリ、守吏ヲ討タルニ「國ノ兵競追ケレバ敗北レテ鈴鹿山ニテ自殺シテ死セリ」サレ凡此處ニハイラヌヲナレバ刪テヨロレカラニカ攝

人多田行綱太田豊嶋等兵一千騎陣于小溝、要而擊之不克不克トバカリニテハ義盛ヲ討テカタヌヤラ

文意ガ属セヌナリ義經擊而破之如此ニ改ムベキカ六日義經發

至大物將發舟值颶而不克義經トコトハラズ凡前ノ章トツリ合セテ刪ルベ

レ発ノ字ハアーリ大竄于南山前ノ遂ノ字トハアラメナリ改ムベシ前ノ遂ノ字トハアラメナリ合ニナルナリ

兵之入而怨勅義經討賴朝也如此ニ後ノ院宣ノ意ガ知レヌナリ免角

文章ハ今書「ヨリ一段 前ノ丁ガ肝要ナリ

十二日勅美作州捕義經行

家二十八日時政實平入洛爲賴朝奏請六十

六州總追捕使以大索

搜義經行家及平氏噍

類

人ヲサガシモトムルニ搜ノ字ハイカアラン史留侯ノ世家

此二字ガナケレバ索ノ字ヲ用ユベキカ

許之

此四字ガナケレバ賴朝ノ霸
ノナレルトシカトナキナリ

於是乎賴朝之霸成

矣明年春義經奔于奥依其刺史藤原秀衡後
五年秀衡死其子泰衡等畏賴朝而殺義經賴

朝聞之曰擅殺吾弟請討泰衡不待報而發泰

衡敗走以死奥州平於是乎賴朝之霸定矣

タリハ大概堪忍ガナルナリレカシ義經コロスハ賴朝ヲ畏レシユヘナ

ハ其事ヲ卒テ見スベシ前ニモ云トラリ事ヲ記スルニハ一段ヅ、前三

主意ヲカ、子ハ文章ガ連属セヌナリ鬼角和
習ガ出テ文章ニナラヌコナリ慎ムキナリ 君子曰義經不
亡、賴朝不霸世人至于今悲夫義經之勲而弗
報天哉雖然豈是豈翅悲義經已乎哉

譯文要訣終

釋文要訣

古終

天明四年甲辰三月發行

浪華書林

高橋平助

稻葉新右衛門

浪華
岡田種玉堂藏板書目

大阪心齋稿通北久太良町北上入

神代卷

全二冊

同頭書

全二冊

正訓

稿本稻彥著
近刻

全三冊

神代紀革芽

本居大人校正

全六冊

此卷六遠州土萬倍先生著述三シテ賀茂真淵

本居宣長兩大人正說ニモトワキ古ヘノ訓点ニ復

古義ヲサトシタル書ニテ古学ニモトワクニ便リヨキ合

ナリサハ古学ニスル人先此卷ニ因テ神代紀ヲ解スジ

校正古語拾遺

齋部廣成著

全一冊

古語拾遺言餘鈔

全五冊

古語拾遺ト云六神代以後神社祭事等ノ古
法ヲトリウシナヒシ事ドモヲ記セシ書ナリ其本
卷ニウタガハシキモノヲ明辨訣訣シテサトシタルヲ
言餘鈔ト云

古文真寶後集

筱崎先生頭書評註
新刻全二冊

同無点再版

全二冊

虞書新志

唐本翻刻
司
全八冊

隸續

全四冊

兩漢晉魏ノ間ノ碑碣石經ノタクヒ其外刀鏡鼎
類スベテ漢ノ代ノ遺文ヲアツム

五代史

補刻
全十五冊

潛夫論

同
全五冊

後漢ノ王符著述ニシテノ時代得失ヲシル所
ナリスベテ三十五篇アリ

古註大成四書字引

小本一冊

四書字引アタアリトイドモ古註新註セシ
サク委シキハ此卷ニオヨブモノトシ実ニ四書字
引大成ナルモノナリ

古語拾遺示蒙節解 全四冊

冠辭考

賀茂真淵大人著 全十冊

同 繢貂

上田秋成大人著 全七冊

翁辭考

翁辭考ふとれどもらはれども詮釈をくわ

掌中冠辭例

全一冊

右の二通り要領を授梓して出

枕詞補註

尾崎雅嘉大人著 全二冊

和歌虛詞考

加藤景範著 全二冊

紫式部日記謗註

壺井義知著 全二冊

和歌虛詞考

加藤景範著 全二冊

紫式部日記謗註

壺井義知著 全二冊

和歌虛詞考

加藤景範著 全二冊

和楷正訛

春臺先生著楷合卷
此卷坐右二字未探索遠

全一冊

批點檀弓

全一冊

西京雜記

全二冊

開口新話

全一冊

斥非

春臺先生著

全二冊

作文初問

全一冊

茶山集

宋白哉著

全四冊

文論詩論

同著

全二冊

譯文要訣

全一冊

同附錄

全一冊

同續

全一冊

明詩礎

小本

全三冊

高士傳

唐本翻刻

全三冊

東郊先生文集

全五冊

棲碧山人百絕

讀岐牧麻溪先生著

全一冊

詩學新論

全三冊

物類品隲

全六冊

明詩礎

小本

全三冊

高士傳

唐本翻刻

全三冊

東郊先生文集

全五冊

棲碧山人百絕

讀岐牧麻溪先生著

全一冊

詩學新論

小本

全三冊

物類品隲

小本

全六冊

明詩礎

小本

全三冊

高士傳

唐本翻刻

全三冊

東郊先生文集

全五冊

棲碧山人百絕

讀岐牧麻溪先生著

全一冊

松の屋藤井大人著
全一冊

宇田川玄隨先生著

全十八冊

內科撰要

佐喜艸 同著 全一冊

卷之三

消息文例 同著 全二冊

まことに御教とくべつ初めのばへておもひゆふ
ごんじやうの處とまよひ下のふくら井大人の
考をうえね要代うり

萬葉集
卷之二
一
休文の牛うそと要えと接觸しても余室
ふたうらと何をあつて席上の役わうし

16

萬葉集類兼抄 村上潔夫輯
小本全二冊

秀穀人集立難ノ如歌を多くつらひて
了了古神を承りしよとよ少獨

同二聖集 石津亮院著 全一冊

に妙れども之を始ふニ至る所とて是へのを
古來風體鈔 全五冊

醫書事惑問 吉益先生著 全二冊

此書ハ病疾ニヨリテ医ヲモトメ服茱スルノ心得
的當ノ医茱ヲ知ルコトヲ論ジ平カ十二テサトシ
タル人家重宝ノ書ナリ此各ヲ見テ後医ヲ求
ムル時ハスニヤカニ治ヲ得ベシ

古今醫療集覽 全三冊

宋朝御局考 全二冊

此書ハ宋ノ帝民ノ病苦ヲスクハント欲シテ濟民
御局ノ方書ヲ作ラレタルモノナリ

金匱妙藥選 全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙茱秘方ヲエラビ
素人ニテモ療治ヲ得ル茱方數多出ス

脚氣方論 村菴先生撰 全三冊

凡カツケノ諸症少々多シ鹿工ニ名ニ治ヲ下レ
人命ヲアヤニツコトヲ先生深クナケキ年來心ヲ
用ヒ病原ヲ明ラカニ見ワノ治驗ヲスニヤカニ得ル
コトヲ弁シタル救世ノ書ナリ

無名抄

鶴長明

全二冊

細川幽齋聞書

全二冊

同 聞書全集

全三冊

俳諧じくとり喰

全二冊

發句新五子稿

全二冊

古今俳諧明題集

涼岱子撰

全五冊

古今俳諧明題集

涼岱子撰

全二冊

桺良七部集

全二冊

俳諧戯句題葉集

小本
全五冊

黄花菴詩六著

全二冊

古今俳諧明題集

全二冊

桺良七部集

全二冊

俳諧戯句題葉集

小本
全五冊

和漢年代覽要

懷中本
文政再版

全一冊

近江國大繪圖

懷中本
文政再版

全一冊

同 新十家戯句集

全四冊

同 四季俳題櫻苗

花屋菴詩洞撰
全二冊

全一冊

同 新增戯句集

花屋菴詩洞撰
全二冊

全一冊

同 増補大成

花屋菴詩洞撰
全一冊

全一冊

即席早速庵丁

兩面
一折

全一冊

播磨國大繪圖

一鋪

一鋪

梅道入墨竹譜

全一冊

全一冊

新撰染物離形

全七冊

全七冊

断易早合点

全二冊

易道撥亂

春臺先生著
周興嗣ノ千字文ニナフヒ本朝俗語日々取扱フ
易占考ヲ知ルノ極意ヲシス

易道撥亂

春臺先生著
周興嗣ノ千字文ニナフヒ本朝俗語日々取扱フ
易占考ヲ知ルノ極意ヲシス

貴人帖

廣澤先生書
周興嗣ノ千字文ニナフヒ本朝俗語日々取扱フ
易占考ヲ知ルノ極意ヲシス

大橋俚語千字文

明浦先生
尊圓親王御真筆
詩歌御手本

全二冊

當流字畫小謠

頭書
周興嗣ノ千字文ニナフヒ本朝俗語日々取扱フ
易占考ヲ知ルノ極意ヲシス

全一冊

菖蒲賀

尊圓親王御真筆
詩歌御手本

全一冊

易道撥亂辨

太宰東郭先生著
周興嗣ノ千字文ニナフヒ本朝俗語日々取扱フ
易占考ヲ知ルノ極意ヲシス

全一冊

即席料理

折本全一冊

同 料理早鍋

西面摺折本全一冊

驥蟲日記

全一冊

嵯峨樵歌

北條霞亭著
薇山三觀合刻同著

全一冊

繪本武勇画鑑

全三冊

霞亭二稿

歸省詩叢
薇山三觀合刻同著

全一冊

黃葉夕陽村舍詩

首茶山先生著
薇山三觀合刻同著

全四冊

論語筆解

唐韓愈著

全一冊

近人小詩

樸碧先生

全二冊

尊圓庭訓往來

全一冊

風牀小詩

備中風牀上人著作

全一冊

淺瀨の止み屋

松屋大人作

全一冊

管茶山寛齋大窪詩佛池五山柏如亭等
霞亭ノ諸先生ヲ始其外名賢持アタアリ求テ
四方ノ英傑ヲ知リタフベシ
先生讀解數部アリ大ニ世ニ行レテ人貴宝スル
所タリ今刻ストコロ易經ハ只意義ヲ説明ス
ル耳ナラダト並ラ作ス人モ此ニ就テ学ベ大ニ判
断ノ助ケトナルカナドキ第一ノ秘冊ナリ

經典餘師

易經之部 漢百年先生著

全七冊

烏石成肅公碑

楷書大字石搨

一冊

天の真柱

全一冊

外國上りめれ天地の経代皇國の古傳
從玉考(今セアラ)書シテ神代考ヒテアリ
又ミバ古事の基モト他ヨウシクレ

古語拾遺句解

全二冊

大祓後ノ釋 松屋藤井大人著 全二冊

草紙 木下幸文大人著 全三冊

此書ニモト歌詩の方には序文後半まで
万葉詩の古集ともみむむ行ふ物語
書の上うづの傳い代もくらまく経ての奇
活もくとく且高妙の序どもくらまく経じ
活らばくとく小大人のちえうともまくまく

枕草紙傍註

全十冊

大阪書林

心齋橋通北久太良町北入

河内屋儀助

増補和歌明題部類

小本全二冊

同 繢

小本全一冊

増補和歌組題集

合刻小本全一冊

名所部類考

全二冊

日本紀竟宴歌集

全二冊

俳諧近世發句類題集

全四冊

此書ハ當時の俳名家は数多く以てゐるが
セラリ四季よりの數段の誠かを垂流り度
句の風味とてくに佳く有り

同 今様發句集

八百卷万和輯 小本全二冊

今時詠名家は多く有り本和宗匠の秀ひを
くわくとくほじ半了四季發句集あり

